

- 9月の米消費者物価指数は前月比で5月以来の低水準、前年同月比は2%を下回る水準で足もと推移。しかし、緩慢な物価の伸びやゼロ金利観測にもかかわらず、米10年国債利回りには上昇の兆しも。
- 民主党政権が成立した場合、2兆米ドルを超える追加経済対策が行われ、米景気回復や、財政赤字を賄うための米国債増発による需給悪化が米長期金利上昇につながるの見方も。

米国の物価上昇ペースは総じて緩慢とみられる

13日に米労働省が発表した9月の米消費者物価指数(CPI)は前月比+0.2%と、5月以来の水準へ伸びが鈍化しました。

内訳をみると、全体の約3分の1を占める居住費は同+0.1%と、伸びが低水準にとどまり、約14%を占める食料品は同横ばいでした。また、輸送サービスや衣料品は4ヵ月ぶりに伸びがマイナスとなりました。一方、ガスサービスが同+4.2%と、およそ2年ぶりの高い伸びとなったことでエネルギー全体としてはプラスとなりましたが、燃料油はマイナスでした。

CPIは前年同月比では+1.4%と、半年ぶりの高い伸びでした。振れの大きい食品とエネルギーを除いたCPIコアは同+1.7%と、5ヵ月ぶりの高い伸びとなった前月と同水準でした。ただし、米連邦準備理事会(FRB)が物価目標の平均値とする2%をいずれも下回る水準で足もと推移しており、米国の物価上昇ペースは総じて緩慢とみられます。

選挙結果が米長期金利動向に大きく影響の可能性も

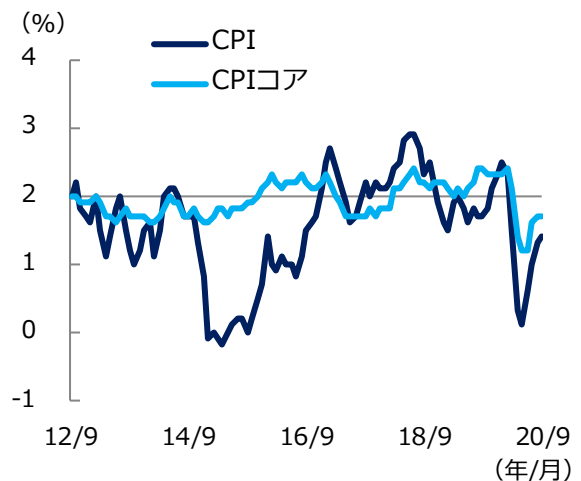
緩慢な物価の伸びに加え、FRBによる実質的なゼロ金利政策が長期化するとの見方などを背景に、米10年国債利回りは、8月4日に過去最低を記録しました。

しかし、米大統領選挙で民主党のバイデン候補が優勢と見方が強まるにつれて、同利回りには上昇の兆しがみられます。

こうした動きは、民主党政権が成立した場合、共和党の提案を大幅に上回る、2兆米ドルを超える追加経済対策が行われ、米景気回復や、財政赤字を賄うための米国債増発による需給悪化が米長期金利上昇につながるの見方を少なからず反映していると思われます。

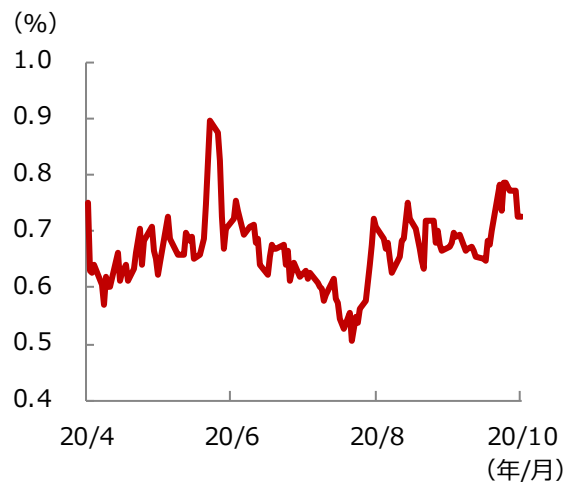
こうしたことから、米大統領選挙や米上下院選挙の結果が米長期金利動向に大きく影響を及ぼす可能性があります。

米CPIの推移



※期間：2012年9月～2020年9月（月次）
前年同月比、季節調整前

米10年国債利回りの推移



※期間：2020年4月14日～2020年10月14日（日次）

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。